

**令和元年度**

**清瀬市行政評価外部評価**

**市民ワークショップ 報告書**

**令和元年 6 月**

**清瀬市**

# I 外部評価市民ワークショップの概要

## 1. 背景・実施目的

### (1) 背景

本市では、平成 17 年度より市の行政活動を評価し、評価結果を次年度の予算編成などに反映させる行政評価制度に取り組んでいます。

平成 28 年度より、「第4次清瀬市長期総合計画(平成 28 年度～平成 37 年度)」(以下、「4次長総」)に基づく計画的なまちづくりを推進するため、4次長総で掲げる「施策」を単位とした「施策評価」を実施しています。

また、より透明性が高く、効率的かつ効果的な市政運営を推進するため、平成 24 年度より外部評価(第三者評価)を実施し、平成 28 年度より無作為抽出等による市民公募を行い、普段市政に関わりの薄い方々の関心を高めるとともに、サイレントマジョリティ(物言わぬ多数派)の意見を聴取することで、市民への説明責任や透明性について強化を図っています。

### (2) 実施目的

4次長総に基づく取組の推進状況、課題や対応策等について、市民と担当部署で協議し、外部評価で出た課題や意見を二次評価(行政評価委員会)の中で一次評価結果と併せて協議し、次年度以降の取組や予算編成の参考とすることを目的とします。

## 2. 開催概要

(1) 日時	令和元年 5 月 25 日(土)9 時 30 分～16 時 00 分																																													
(2) 場所	清瀬市役所 委員会室																																													
(3) 対象者	住民基本台帳から無作為抽出で選定された 18 歳以上の市民 1,000 人のうち参加希望者と、その家族や友人等(18 歳以上の市民 1 名迄)																																													
(4) 参加者	11 名((3)の希望者 8 名、その家族、友人等 3 名) <table border="1"><thead><tr><th></th><th>男性</th><th>女性</th><th>合計</th><th>年代の割合</th></tr></thead><tbody><tr><td>30 代未満</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0%</td></tr><tr><td>30 代</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0%</td></tr><tr><td>40 代</td><td>0</td><td>1</td><td>1</td><td>9%</td></tr><tr><td>50 代</td><td>3</td><td>3</td><td>6</td><td>55%</td></tr><tr><td>60 代</td><td>2</td><td>0</td><td>2</td><td>18%</td></tr><tr><td>70 代以上</td><td>1</td><td>1</td><td>2</td><td>18%</td></tr><tr><td>合計</td><td>6 人</td><td>5 人</td><td>11 人</td><td>100%</td></tr><tr><td>男女の割合</td><td>55%</td><td>45%</td><td>100%</td><td>—</td></tr></tbody></table>		男性	女性	合計	年代の割合	30 代未満	0	0	0	0%	30 代	0	0	0	0%	40 代	0	1	1	9%	50 代	3	3	6	55%	60 代	2	0	2	18%	70 代以上	1	1	2	18%	合計	6 人	5 人	11 人	100%	男女の割合	55%	45%	100%	—
	男性	女性	合計	年代の割合																																										
30 代未満	0	0	0	0%																																										
30 代	0	0	0	0%																																										
40 代	0	1	1	9%																																										
50 代	3	3	6	55%																																										
60 代	2	0	2	18%																																										
70 代以上	1	1	2	18%																																										
合計	6 人	5 人	11 人	100%																																										
男女の割合	55%	45%	100%	—																																										
(5) 内容	参加者は指定されたグループに分かれ、4 施策についてワークショップ形式で考察や協議、評価を行いました。																																													

<b>(6)評価対象</b>	<b>【午前】</b>
	A グループ: 施策 212_障害者・障害児の支援
	B グループ: 施策 421_自然環境の保全
	<b>【午後】</b>
A グループ: 施策 122_生涯学習活動の支援	
B グループ: 施策 312_子育ての支援	

### 3. 評価対象施策

評価対象施策は、特に多角的な視点での評価を要すると判断した以下の 4 つの施策について外部評価を実施しました。

#### ✚ 第1分野「暮らし」の分野から選定

##### 施策 122 生涯学習活動の支援

施策の方向性

- 市民ニーズを踏まえた学習活動を支援します
- 「学びの循環」を生かした生涯学習を推進します
- 地域の情報拠点としての図書館サービスの充実に努めます



#### ✚ 第2分野「支え合い」の分野から選定

##### 施策 212 障害者・障害児の支援

施策の方向性

- 障害者(児)の自立した生活を支援します
- 障害者(児)の社会参加を促進します



第3分野「人づくり」の分野から抽出

**施策 312 子育ての支援**

施策の方向性

- 安定した子育てを支える基盤を築きます
- ゆとりを持って子育てできるよう支援します
- 子育て家庭の不安の解消に努めます



第4分野「基盤づくり」の分野から抽出

**施策 421 自然環境の保全**

施策の方向性

- 自然の大切さを広め、緑地や水辺など自然環境の保全に努めます
- 雑木林の再生と水辺と親しめる環境を整備し、うるおいを感じるまちづくりを進めます



## 4. 実施方法

事務局から本市の現状や課題を、施策担当部署から施策に対する自己評価の結果を説明した後、ワークショップ形式により市民と担当部署で協議を行いました。

### ワークショップのポイント

#### 付せんによる意見の整理

参加者が考える施策を進める上での課題を各自付せんに書き出し、グループ内で共有し

ました。これにより、多くの意見が出やすく意見の整理や、テーマに集中した協議を行うことを目指しました。また同時に施策の進捗状況の評価も行いました。



協議の様子



協議の様子

## 5. 当日のスケジュール

### 午前の部

時間	プログラム
9:30	開会、挨拶(企画部長)
9:35	清瀬市の現状と課題(企画課長)
9:55	オリエンテーション(本日の進め方)
10:10	ワークショップ <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己紹介</li> <li>・施策(施策 212、施策 421)について説明</li> <li>・施策を進める上での課題考察</li> <li>・考察内容を発表、共有</li> <li>・施策担当部署との協議、意見交換</li> <li>・施策の評価</li> </ul>
11:55	事務連絡等
12:00	閉会

### 午後の部

時間	プログラム
13:30	開会、挨拶(企画課長)
13:35	清瀬市の現状と課題(企画課長)
13:55	オリエンテーション(本日の進め方)

14:10	ワークショップ ・自己紹介 ・施策(施策 122、施策 312)について説明 ・施策を進める上での課題考察 ・考察内容を発表、共有 ・施策担当部署との協議、意見交換 ・施策の評価
15:55	事務連絡等
16:00	閉会

## II 評価結果(ワークショップの内容)

以下のとおり、グループ毎に「施策を進める上での課題」を考察し、挙げられた課題について担当部署から現在の取組状況や今後の展望を説明し、課題に対して何をしていくべきかを協議しました。最後に施策の推進状況、担当部署との協議を踏まえ、参加者個人による施策評価を実施しました。



付せんと模造紙を用いての協議



参加者に貼り付けていただいた後の模造紙

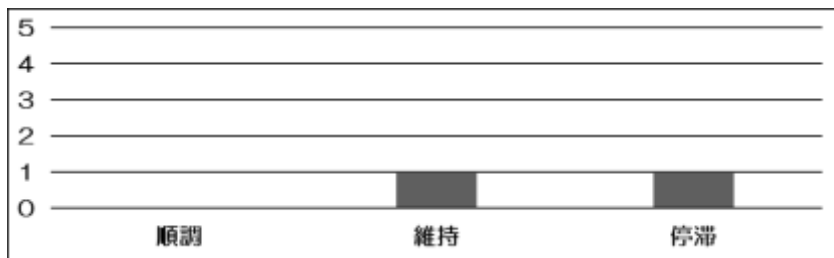
## ✚ 施策 122 生涯学習活動の支援

- 参加者の発言
- ◇ 担当部署の発言

参加者が考える施策を進める上での課題・取り巻く環境	そのために何をしているか、何をしていくべきか
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 施設・場所の確保、活用に関する課題</li> <li>• 集まる場所が少なく、定期的に予約を取るのが難しい。</li> <li>• スポーツを行う施設が足りない。</li> <li>• 遠いため、多摩六都科学館の有効活用が出来ていない。</li> <li>• 図書館が駅前に偏っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 施設・場所の確保、活用に関する課題</li> <li>◇ 公共施設の老朽化の対応や既存施設の維持管理に注力する必要があるため、新しい施設を建設することは難しい。</li> <li>◇ 施設の稼働率の数字だけみると余裕があるが、市民の使用希望日が集中してしまっているため、予約が取りにくい。</li> <li>• 今ある施設の有効活用方法を考えるべき。</li> <li>• 施設の借用時間の枠が長いのではないか(2時間区切りにしたらどうか)。</li> <li>◇ スポーツ施設や図書館等、近隣の自治体同士で施設を補い合っている(広域連携による相互利用)。</li> <li>◇ 現在検討している既存施設の再編を実施する際、その中で市民の生涯学習活動の場所としての機能を複合化することを検討する。</li> <li>• 市の生涯学習事業に協力をしてもらうなど、多摩六都科学館との連携をもっと進めるべき。</li> <li>◇ グループの少人数化が進んでいる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 情報発信、人材活用の課題</li> <li>• 限られた人にしか情報が届いていない。</li> <li>• 市ホームページを見る機会がない。</li> <li>• 人材バンクの周知が足りず、活用がされていない。</li> <li>• 働いている世代は情報が少ないため、市の状況、ニーズが分から</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 情報発信、人材活用の課題</li> <li>◇ 魅力的な情報発信(市報・HP)をしなければならないと考えている。</li> <li>◇ 今後は、人材バンクの周知、活用に力を入れる見込みである。</li> <li>◇ 学校支援本部で地域コーディネーターを養成している。</li> <li>◇ きよせボランティア・市民活動センターで市民と市民活動団体とのマ</li> </ul>

<p>ない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>働き世代の参画が不足しているため、次世代の生涯学習活動団体が育っていない。</li> </ul>	<p>ツチング支援をしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>講師に退職者の活用(どんなことを教えたいのか調査して)をすべき。</li> <li>ボランティア等、人材募集を一本化したツールの構築をすべき。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 受益者負担への課題</li> <li>● 限られた財源で生涯学習の充実を図るには、地域の人材を活かしていくことが必要。(学びの循環を目指す。)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 受益者負担への課題</li> <li>● 月謝は取るべき(講座内容の質の担保、受講者の意欲向上、民間の圧迫につながってはいけない)。</li> <li>◇ 講座の直営、無償については見直していく考えである。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 市と市民の関わり方の課題</li> <li>● 協力する気持ちがあっても、どのように関わったら良いか分からない。</li> <li>● 市民の市に対する気持ちが冷たく感じる。</li> <li>● 市の協力方法に偏りを感じる。(石田波郷俳句大会は盛り上がっていて、川柳は盛り上がっていない)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 市と市民との関わり方の課題</li> <li>◇ 学びの循環を推進して市民主導の生涯学習活動が地域に根付くのが理想だと考えている。</li> <li>● 市民がどのようにしたら関わられるのか、きっかけの提供があると良い。</li> </ul>

参加者による評価結果



順調: 進捗が順調に推移している  
維持: 進捗に一部課題がある  
停滞: 進捗が遅れている。



評価理由

【維持】

- 生涯学習方針策定が課題であるが、その他順調に推移していると感じたため、維持と評価した。

【停滞】

- 生涯学習活動に対し、市が手放しすぎたと感じている(市民文化祭は市が運営した方が良い)ため、停滞と評価した。

✚ 施策 212 障害者・障害児の支援

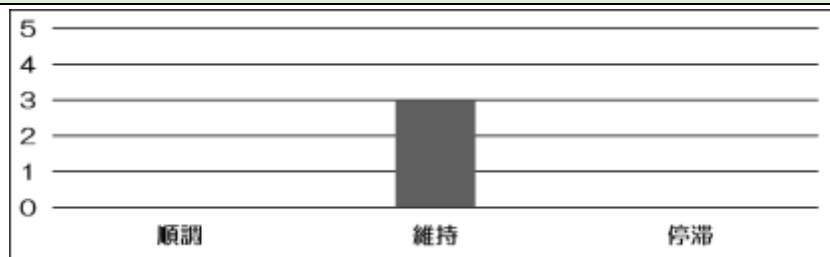
- 参加者の発言
- ◇ 担当部署の発言

参加者が考える施策を進める上での課題・取り巻く環境	そのために何をしているか、何をしていくべきか
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 事業所の水準の確保、支援サービスの向上に関する課題</li> <li>● 施設職員報酬の増額が必要である。</li> <li>● 人材確保が急務である。</li> <li>● 事業所検査の質の確保が大切である。</li> <li>● 民間事業者の事業内容の適切な評価が必要である。民間に委ねると同時に、サービスの質をしっかりと見ていかなければならない。</li> <li>● 施設の利用のしやすさがサービスの向上に直結している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 事業所の水準の確保、支援サービスの向上に関する課題</li> <li>◇ 職員報酬の増額については、市長会を通じて東京都へ、東京都から国へ要望している。</li> <li>◇ 事業所への市の立入検査は実施出来ていない。</li> <li>◇ 相談支援事業所(サービス利用者・行政)によって、概ね半年に1度、利用者に対する事業所サービス内容を見直している。</li> <li>◇ 入所施設には都は積極的に指導検査しているが、通所施設や事業所に対しては消極的である。</li> <li>◇ 事業所への第三者評価の実施に対する補助金制度がない。</li> <li>● 障害者施策の改善に向けて、市民の協力できること(署名やネットでの呼びかけ)を可視化する。</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>● 障害者の親の高齢化、収入の確保に関する課題</li> <li>● 親の死亡により1人きりになってしまう。</li> <li>● 障害者センターで作っている物を公益性の高い国や自治体で積極的に活用してほしい。</li> <li>● 以前、段ボールなど回収していたがやめてしまった、収入を得ることが出来なくなってしまうのではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 障害者の親の高齢化、収入の確保に関する課題</li> <li>◇ 施設入所、グループホームサービス等の障害者福祉サービスの拡充が求められる。</li> <li>◇ 福祉作業所のB型就労支援(パンの製造、販売など)で収入を得ている。</li> <li>◇ 障害者センターでは石鹸を作って販売している。</li> <li>● 自分の周りにいないと自分事として捉えられない。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域住民との関わり(支援)に関する課題</li> <li>● 地域住民への理解が大切である。</li> <li>● 市民が障害者に対する市の施策内容を知らない。</li> <li>● 障害児とのふれあいが理解に繋がるのではないか。</li> <li>● 障害者センターではどんなことをしているのかわからない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域住民との関わり(支援)に関する課題</li> <li>● 自分事として考える状況に至っていないため、考えられるようにする仕組みづくりが大切である。</li> <li>◇ 自立支援協議会で課題の解決に向けて議論している。</li> <li>◇ 同行援護ヘルパー養成講座を開催している。</li> <li>● 社会事業大学の生徒に協力してもらい学生ヘルパーを養成できないか。</li> <li>◇ 障害者センターでのふくしま祭り、事業所でのわかばまつりを開催し地域に開いている。また、市内福祉事業所が協力してふれあいまつりをコミュニティプラザひまわりで年に1回、盛大に開催している。</li> <li>◇ 事業所では、小学校で障害者理解やふれあい事業を実施している。</li> <li>◇ 物理的にバリアフリーが推進され、障害者が外に出やすくなり市民の目に触れることで、市民の意識が変わり障害者理解が進むのではないか。</li> <li>● 障害者施策の改善に向けて、市民の協力できること(署名やネットで</li> </ul>

	の呼びかけ)を可視化する。
--	---------------

**参加者による評価結果**



順調: 進捗が順調に推移している  
 維持: 進捗に一部課題がある  
 停滞: 進捗が遅れている

**評価理由**

**【維持】**

- 事業所に対する評価や地域住民への認識を高めていくといった課題があるため、維持と評価した。
- 市民全体に理解してもらうのは難しいと感じるため、維持と評価した。
- 国の施策が占める割合が大きく、市の取り組みだけでは難しいのではないかと感じ、維持と評価した。

- 参加者の発言
- ◇ 担当部署の発言

**施策 312 子育ての支援**

参加者が考える施策を進める上での課題・取り巻く環境	そのために何をしているか、何をしていくべきか
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 保育人材、社会的インフラ、子どもの居場所の不足に関する課題</li> <li>● 子育てを終えて手が空いている方や、資格を持っている方、保育の手伝いをしたいと思っている方等の保育人材の発掘が課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 保育人材、社会的インフラ、子どもの居場所の不足に関する課題</li> <li>◇ 都内には待機児童が多い。保育士の取り合いとなっている。その様な中、自治体毎に保育士の家賃補助等を行い保育人材の確保に努め</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>• 市内に出産できる病院がない。また清瀬市は病院のまちと謳っているが救急の受入れがない。子育て世帯に選ばれるまちになるためには病院は大事なワードである。</li> <li>• 大きな公園等がなく、放課後の子どもの居場所がない。放課後子ども教室「まなべー」は、宿題をしてからでないと遊べないというルールがあったり、学童の子どもと一緒に遊べないこともあって、子どもに人気がない。</li> </ul>	<p>ている。また東京都では、有資格者ではないが保育人材となり得る方の掘り下げを行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 病院の適正配置は東京都が進めているところだが、東京都は、産婦人科医や小児科医が不足する中、様々な場所に医師を配置すると24時間体制が確保できないため、センター化を進める考えを持っている。この地域は多摩医療センターに集約化された。近隣では清瀬市の他、東村山市も産院がない。</li> <li>◇ 放課後の子どもの居場所は、主に保護者が働いている児童を対象とした学童クラブや、保護者の就労の有無に限らず誰でも参加できる放課後子ども教室「まなべー」がある。その他、児童館が3カ所ある。まなべーは全校展開しており、他市と比較すると充実している。学童クラブの待機児童(主に高学年)には、まなべーを利用してもらっている。ただし他市は、まなべーの代わりに児童館が隣接していたりする。</li> <li>◇ まなべーに携わっている方は有償ボランティアで無資格者であるのに対し、学童は有資格者である。よって学童が「育成」であるのに対して、まなべーは「見守り」である。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域全体で子育てするための場・人・情報の不足に関する課題</li> <li>• 子育て世帯と一般の方の接点がない。接点を持つための団体、チームがない。全て行政任せとなっているが、きっかけづくりは行政がやるべきである。</li> <li>• 健全育成委員会、青少年協議会、学校支援地域本部、避難所運営</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域全体で子育てするための場・人・情報の不足に関する課題</li> <li>◇ ピッコロやウィズアイ等、子育てNPO法人が充実しており、清瀬市が誇る部分である。</li> <li>◇ 地域づくりという点では、子育て広場事業として、公立保育園及び私立保育園の全園で園庭の一般開放をしている。子育て世帯の交流</li> </ul>

連絡協議会、都市ボランティア、パトロール等、各種団体はある。むしろ沢山ありすぎて分からない。団体があることを知らない人が多い。知ってもらい、参加してもらうことが大事。団体を沢山つくっても参加者は同じ顔ばかりである。沢山つくと、どれも手薄になることが懸念される。

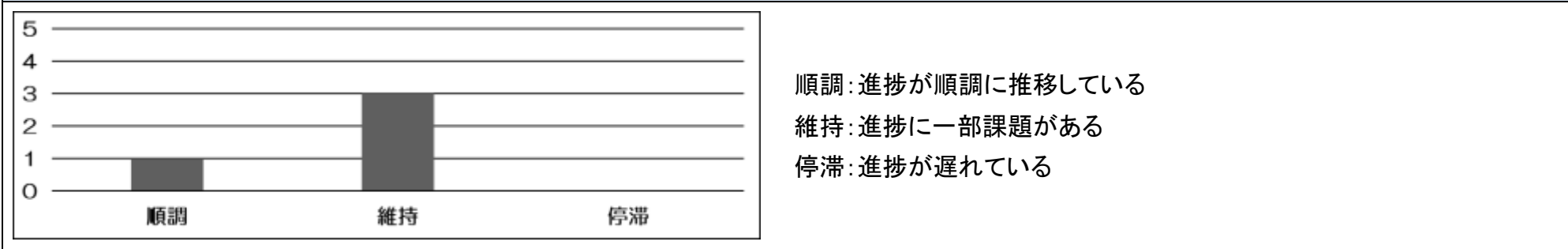
- 団体を立ち上げた当初はよかったが、その後、形骸化しているものも見られる。一度、組織を立て直すことが課題である。
- 幼稚園や保育園の取り組みの一環として、地域の公園に植栽する等して、子育て世帯と地域が交流する場が必要である。
- 現在、幼稚園や保育園は、不審者対策等で塀を高くしており、むしろ地域から隔たる傾向である。
- 幼稚園等の PTA は解散しているところが多い。幼稚園や保育園の利用者は地域を知らないだけでなく、保護者同士も知らない。孤立しているのではないか。
- 子育て世帯は地域との関り方を知らないように思う。子育て世帯は情報を得ることができていないのではないか。
- 長期総合計画で掲げる「10 年後の姿」を知っている人はどれだけいるのか、あまり浸透していない。
- ワンオペで子育てしている人への支援策等、情報がすぐ取得できることが必要である。また、子育てに関する相談をワンストップで行う仕組みづくりが必要である。
- ごみ捨ての際、あいさつをしない若い方がいる。地域全体で子育てするまちづくりを進める上で、子育て世代が地域に何を求めている

や相談等を行っているが年々参加者は減っている。恐らく共働きが増え、日中子どもと過ごしている世帯が少なくなっているため、この事業に参加できる対象者自体が減っている。ただし積極的に声掛けをすると利用してもらえるので、その様なきっかけづくりが大切だと認識している。

- ◇ 地域で自発的にやると不審者の課題があるが、保育園という信頼性がある場所でやると効果的である。
- ◇ つどいの広場を各児童館等で実施している。一度参加すると定期的に通って頂ける。
- ◇ 行政からの情報発信については、子育てサービスやその他の情報を一つにまとめたハンドブックを配布している。以前に比べて情報の周知は充実している。ただし必要な時、必要な情報がうまく入って行くことが大事であり、その点はまだまだ課題がある。また保護者どうしの口コミも大きいいため、その繋がりも大事にしている。
- ◇ 妊娠期から子育て期にかけて支援する清瀬版ネウボラを行っている。特に産後うつ等に対処するため、妊娠前後で訪問や相談、各種事業等を展開している。それらのサービスが一元的に受けられるよう、子育て支援包括センターという窓口を掲げ、ワンストップ化を図っている。
- 自治会のない地域にもコミュニケーションや連絡を図るツールがあると良い。
- 地域の繋がりを行政が斡旋してくれるとよい。例えば災害等で自治会がない地域も連絡網があると安心であるが一住民が言うと不審が

<p>のか分からないため、助けてあげたくても何をしたいかわからない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>誰でも行っていいと言ってもらえると、地域の行事に参加しやすくなる。</li> </ul>	<p>られてしまう。自治会長等堅苦しいものは若い人は毛嫌いする。連絡網の様な緩やかな繋がりがあればコミュニティが進む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>簡単な形での参加では信頼性を損なう懸念もあるので、堅苦しさと兼ね合いが難しい。ピッコロ等のしっかりした団体に参加したいという人を発掘する方がよい。参加する気の無い人は何をしても参加しない。やる気のある人が参加できるようにすることの方が大切である。</li> <li>NPO や会社という身構えてしまうためなかなか行けない。誰でも行ってよいという手軽さがやはり必要である。</li> <li>「何か人のためになることしたい」「そうだ清瀬市に聞いてみよう」など、何か分かりやすいスローガンがあるよい。</li> </ul>
--	--

**参加者による評価結果**



**評価理由**

**【順調】**

- 保育士への目の向け方は、懸念していたより、時代を捉えていて評価できる。具体的な事業等については、一般の方の知恵や知識を得て、一緒に組立てていくことが大事である。地域には私立保育園等、幼児教育のプロがいるので協働していくとよい。

**【維持】**

- 現状の対応だけでは改善が難しい事項が多く、今後も更に改善策を考えなくてはならないため維持とする。子育てという大きなテーマに対して今実施しているサービスだけで全て充足することにはなかなかならない。今やってくれているサービスはよいが、まだ解決されていない課題については引続き改善していくことが必要である。
- 市で一生懸命取り組んでくれていることは評価したい。市も親も地域も、全体が協力して、このままより良い子育てができればよい。
- 保育園等を開設する初期投資を軽減し、ハードルを下げる施策を進めてもらいたいため維持とする。補助金の他、初期投資を抑えるため不動産を貸す等も考えられる。

**✚ 施策 421 自然環境の保全**

- 参加者の発言
- ◇ 担当部署の発言

参加者が考える施策を進める上での課題・取り巻く環境	そのために何をしているか、何をしていくべきか
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 農地の保全に関する課題</li> <li>● 農地が緑の主要部分と考えると農地保全が大事である。ただし、現状のままでは、農家・農地の減少は不可避であり、「豊かな自然環境が適切に保全されている」という「10年後の姿」は悲観的である。</li> <li>● 名古屋で娘が3人いると身上を潰すというが農家も相続を3回するとなくなってしまう。</li> <li>● 相続で切り売りされた畑に住宅が建つと、残された畑の日当たりが悪くなり農作物が育てられない。耕作放棄地となり砂埃等の原因になる。</li> <li>● 近隣住民は見ているようで見ているので、畑を耕すだけではなく見栄えを良くすることも大事である。</li> <li>● 農作物が全て販売できていないと聞く。地産地消が大事である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 農地の保全に関する課題</li> <li>◇ 農地は産業の側面だけでなく、清瀬市の豊かな自然環境の一部であり、良好な景観形成や防災時の活用等、様々な役割を担っている。</li> <li>◇ 生産緑地は、指定30年後の令和4年に原則すべて解除されるが、新制度として特定生産緑地に10年間移行される。今年度はその意向についてニーズ調査を行う。生産緑地は170haあるが、年間3ha程減少している。主たる従事者が営農できないこと等が原因である。緑を残すためには納税猶予の制度を変える必要がある。生産緑地制度も当初より生産性を上げるための緩和措置はされている。田園住居地域という新たな用途地域も予定されている。</li> <li>◇ 生産緑地はそこで農業が営まれているかが大事であり、農業を引き</li> </ul>

	<p>継ぐ制度の構築が必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 都道の整備を予定しており、沿道の用途地域の可能性も高まる中、道の駅を整備し、地元で収穫した農産物を販売し、運営は民間委託で行うといった取り組みも今後考えられる。</li> <li>• 農地を残すには、それなりのコストが必要なため、農家任せにせず全市的な取り組みを実施すべきである。</li> <li>• 農業や緑に関する減税・免税を実施する税制改革が必要である。例えば、宅地と畑の間にある空間に減税や補助等の支援を行うべきである。</li> <li>◇ 今回の施策分野で市が行っている補助制度としては、生垣助成を行っている。ブロック塀に比べて管理が大変であるという声はきくが清瀬市は緑を推進していくということを示すものでもある。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自然環境の保全に関する課題</li> <li>• けやき通りのケヤキは、視界の悪さや落ち葉の問題等、緑を残すことと引き換えにリスクもある。</li> <li>• 木があることに対して近隣住民からは伐採のニーズがあるが、遠くに住んでいる人は保全のニーズがある。定期的な剪定が必要であり、維持管理に一番コストがかかる。そのためにお金を生む何かが必要である。</li> <li>• 緑の保全には、ボランティアだけではなく、ある程度プロの活用が必要である。</li> <li>• 今ある緑を残し、守っていくことは金がかかる。市が旗振り役となる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自然環境の保全に関する課題</li> <li>◇ けやき通りのけやきは、市民の安全を最優先に考え、けやきの強剪定や伐採を実施している。</li> <li>◇ 以前は雑木林の木々が伸び放題であったが、安全性の確保のため萌芽更新等の手入れをし、維持管理をしている。</li> <li>◇ 今回、公共施設のみどりの管理方針を策定し、安全性を踏まえた緑の管理を開始した。方針の中では、将来を考えた樹木の選定や伐採の基準等を設けており、これにより適正に維持管理を図っていく。</li> <li>• けやき通りのけやきなど、周辺環境の要望については早めに確認し、迅速に対応すべきである。</li> </ul>



ことが求められる。

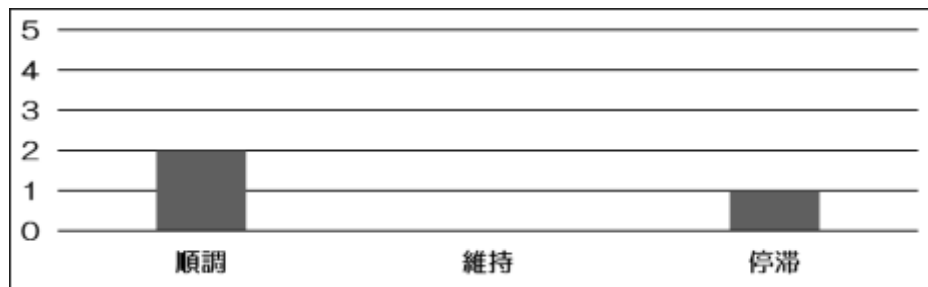
- ◇ 維持管理にはコストがかかるが、現在はボランティアに支えられている。ただしボランティアの担い手不足のため、新たな制度の構築が必要である。
- ◇ 花のあるまちづくり事業について、沿道の商店等に水やりや草取りなどを担ってもらい、協働で実施していくことを目指している。企業の社会貢献、イメージアップにも繋がると考えている。
  - ある程度プロを活用して自然環境の保全を進めるべきである。例えばイベント化して SNS 等を上手に使って参加者を募り、ボランティア活動の活性化をすべきである。
  - 日中働いている世代はボランティアが難しい。今の若い方が高齢になり、時間ができても、ボランティアをすとは限らない。市民が、自分の家だけを守るのではなく、清瀬全体を自分の故郷、生活環境の場という意識を持ち、市政に関心を持つことが大事である。自分の家の前のごみは拾うが駅前には拾わないとしたら、意識改革が必要。自分たちがつくるまちという意識を共有することが大事である。
- ◇ 緑の保全・創出について、緑の大切さを普及・啓発するために、保全の象徴として日の出町から譲り受けたオオムラサキを緑地内のゲージで飼育している。市民にも幼虫から成虫までの飼育体験を実施している。かつて清瀬にもいた蝶だが、現在は姿が見られない為、生態系を壊す懸念があることから放蝶は実施していない。
  - オオムラサキの配布を幼稚園や保育園、学校に拡充し、一年間飼育に携われる様にした方が効果的である。またカブトムシ等の親しみやすい昆虫でも命の教育や環境教育ができるのではないかと。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 子どもたちの農業体験では、種まき後の収穫までを体験してほしい。土を大事にするといったアナログも大切にしたい方がよい。</li> <li>◇ 台田の杜の南側に(仮称)花のある公園を新設予定である。今年度は、来年度の設計に先駆け、市民とのワークショップを行う。市民がどの様に公園に関わるのかを公園の設置前から一緒に考えていく事が目的である。ワークショップでは、公園が新設された後の関わりが想定される花の種まきや花摘み等を実際に体験してもらい、どのような公園にしたなら市民に使ってもらえるのかを検討し、設計にも生かしていく。この企画はプロの力を借りながら進めている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自然や農地を活かしたシティプロモーションに関する課題</li> <li>• 清瀬ひまわりフェスティバルでは普段見かけない若い女性等も訪れる機会となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自然や農地を活かしたシティプロモーションに関する課題</li> <li>◇ 清瀬ひまわりフェスティバルの会場の途中で商店に足を運んでもらうといった取り組みは商工会が行っている。清瀬ひまわりフェスティバルの会場も生産緑地であり、清瀬ひまわりフェスティバルは、生産緑地を存続させる取り組みにもなっている。</li> <li>• 清瀬市には工場等は何にもないが、緑がお金を生む取り組みができる。例えば、清瀬ひまわりフェスティバルで、会場に行く前にトウモロコシでお腹を満たすことや、清瀬のトウモロコシは美味しいので他市と一緒にトウモロコシ総選挙を行う等。「電車で30分の癒されるまち清瀬」と宣伝する等してもよい。また良い意味でSNSの活用ができるとよい。</li> <li>• 人参ジャムは学校の給食程度であり、改善が必要である。現代の人は舌が肥えている。例えば有名レストランのシェフに使ってもらう、監</li> </ul>

修してもら等、もう少し発展できるとよい。

- ◇ 清瀬産蜂蜜をマドレーヌの材料にし、市内洋菓子店で販売するといった取り組みを行っている。
- 地産地消の推進は緑の保全にも繋がる。
- 農産物には、東京都の冠(ブランド)を有効活用すべきである。
- 珍しい分野でも、先を見据えた、他市が気付かない取り組みが1つでもあると良い。

### 参加者による評価結果



順調: 進捗が順調に推移している  
 維持: 進捗に一部課題がある  
 停滞: 進捗が遅れている

### 評価理由

- 【順調】
- 自然環境の保全施策がさらにレベルアップする様、応援と期待を込めて順調とする。
  - 緑、農業に対する市の思い、考えが理解でき、前向きに思えたため順調とした。
- 【停滞】
- 農家・農地の減少に歯止めがかかっていない現状のままでは、「10年後の姿」で掲げる緑の維持の実現は極めて困難であるため停滞とした。